

「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」

帰属意識や規範意識が高く、互いに高め合える「学びに向かう集団」では、児童生徒一人一人の様々な活動への意欲が高まるため、児童生徒が授業にも意欲的に取り組むことが期待されます。

しかし、授業は、「学びに向かう集団」ができあがってから行われるものではありません。日々の授業を含めた学級（ホームルーム）における活動等を通して学級（ホームルーム）集団はつくられていきます。つまり、授業における学習活動も集団づくりの場になっているということです。そのため、教職員は、授業は児童生徒が一日の学校生活の中で最も長い時間を共有する場面であることを踏まえ、授業における学習活動が集団づくりに影響を与えることを意識する必要があります。

本編には、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」のそれぞれ3つの視点に沿った取組事例を掲載しています。学級（ホームルーム）や授業での活動等に活用してください。ICT機器を活用した活動例も紹介しています。



学業指導の担当者は「全ての教職員」です！

「学びに向かう集団づくり」は学級（ホームルーム）担任だけ、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」は教科担任だけが進めていくものではありません。全ての教職員が、「集団づくり」と「授業づくり」の相互の関連を意識して両方の側面から一体的に取組を進めていく「学業指導の担当者」です。

全ての教職員が…

- 学級（ホームルーム）集団の状況や実態を把握し、共有しましょう。
- 教科等のねらいを達成するための学習活動を展開しながら、「集団づくり」を進めることを共有しましょう。
- それぞれの立場から「集団づくり」と「授業づくり」を意図的に進めていきましょう。
- 互いに取組を進めていく中で気づきを共有し、互いに改善を図っていきましょう。

本編には、日頃の教育活動と「学業指導」との関連を紹介するコラムを掲載しています。
[コラム一覧]

- | | |
|------------------|---------------|
| ○ 学業指導と発達支持的生徒指導 | ○ 学業指導と道徳教育 |
| ○ 学業指導と人権教育 | ○ 学業指導といじめの問題 |
| ○ 学業指導と特別活動 | ○ 学業指導と学習指導 |
| ○ 学業指導と幼児教育 | ○ 学業指導と特別支援教育 |

※ 本編は、県ホームページからダウンロードすることができます。



「学業指導の充実に向けて」（改訂版）

一子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる学校を目指して—
（概要版）

令和7（2025）年3月 栃木県教育委員会
（令和4・5・6年度 児童・生徒指導推進委員会協議のまとめ）

概要版

学業指導の充実に向けて（改訂版）

一子どもたち一人一人が大切にされ、
安心して学ぶことができる学校を目指して—

学業指導とは…

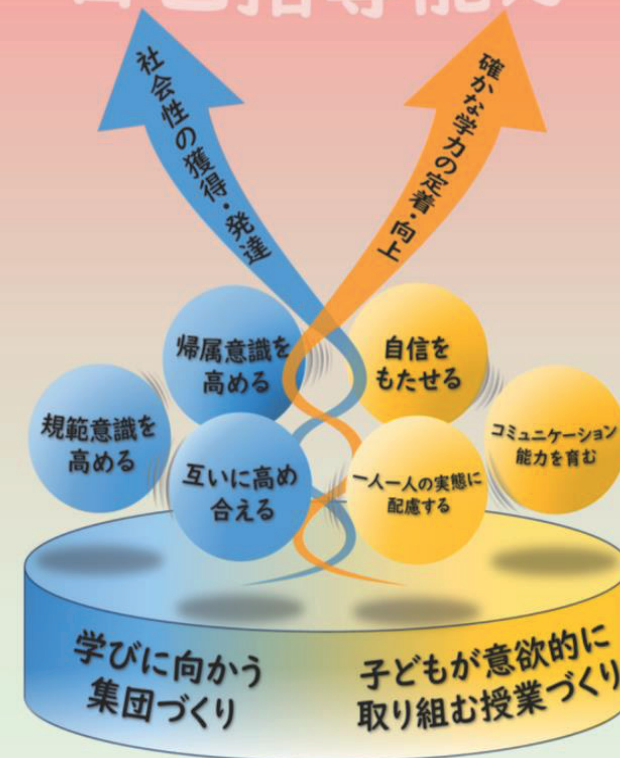
児童生徒一人一人が、社会性や確かな学力を身に付け、自己実現（社会的自立）を図っていくことができるよう、児童生徒の自己指導能力の獲得を支えることを目的として、全ての教職員が全ての児童生徒を対象として、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を意識しながら一体的に進めていく指導・援助のことです。



「学びに向かう集団」とは、児童生徒が、ルールやきまりを守って安心して生活し、互いに支え合い高め合う関係の中で所属感や連帯感を感じる居心地のよい集団です。



自己実現 （社会的自立） 自己指導能力



「子どもが意欲的に取り組む授業」とは、児童生徒が、温かい人間関係や学びやすい環境の中で意欲的に学び合い、「できた」、「分かった」という喜びや達成感を味わえる授業です。



学業指導は、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして、児童生徒一人一人の成長や発達を支えるという考え方に基づく指導・援助です。

「学びに向かう集団づくり」の視点とポイント

集団の状況は、児童生徒一人一人の成長に大きく影響を与えます。そのため、教職員が、一人一人の児童生徒理解に基づき個に応じた指導・援助を行うとともに、集団づくりに向けた具体的な働きかけを進めていくことが必要です。

①【視点】帰属意識の高い学級づくり

ポイント1
認め合う場の設定

ポイント2
協力し合える場の
設定

ポイント3
居心地のよい
環境づくり

ポイント4
感動体験の共有

②【視点】規範意識の高い学級づくり

ポイント1
指導の基盤づくり

ポイント2
ルールの意義の
理解

ポイント3
ルールの内在化

ポイント4
ルールの定着

③【視点】互いに高め合える学級づくり

ポイント1
目標の共有

ポイント2
自発的・自治的な
活動

ポイント3
よさや可能性の
発揮

ポイント4
活動の活性化

サイクルで進める

日々の「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の取組をより効果的な指導・援助とするためには、学年や学校全体で「組織的に進める」ことが有効です。

学校教育目標など児童生徒に期待する姿を共有するとともに、児童生徒の実態を踏まえ、「集団づくり」と「授業づくり」の取組を通じて身に付けさせたい資質・能力を明確にし、年間計画に基づいて「PDCAサイクル」で取組を実施します。

左の資料（令和4（2022）年3月 県教育委員会）では、年3回、PDCAサイクルで取組を進める事例を紹介しています。本編73ページに掲載していますので参考にしてください。



3～4月

P（計画）
アンケート調査①

4～7月

D（実行）
働きかけ・取組
アンケート調査②

8月

C（点検）
アンケート結果の
分析・取組の見直し

A/P（修正/計画）
目標や取組の修正
方向性の共有



子どもたちの意識を把握します。

課題を踏まえ、具体的な取組を検討・実践します。

3月と7月のアンケート結果を比較し、これまでの取組を振り返ります。

点検の結果を踏まえ、目標や取組を修正し共通理解を図ります。

「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の視点とポイント

児童生徒が確かな学力を身に付けることは、児童生徒の自己実現(社会的自立)に欠かせないものです。そのため、教職員が、一人一人の児童生徒にとって「分かる授業」を目指し、日々の授業改善に努めるとともに、児童生徒が学習活動に意欲的に取り組めるよう指導・援助することが必要です。

①【視点】自信をもたせる授業づくり

ポイント1
活躍できる場の
設定

ポイント2
自己選択・自己決定
の場の設定

ポイント3
挑戦する場の設定

ポイント4
満足感・達成感を
味わう場の設定

②【視点】コミュニケーション能力を育む授業づくり

ポイント1
安心して発言できる
雰囲気づくり

ポイント2
協働で学ぶ場の
設定

ポイント3
話合いの工夫

ポイント4
評価や振り返りの
工夫

③【視点】一人一人の実態に配慮した授業づくり

ポイント1
個別の状況の把握

ポイント2
個に応じた対応

ポイント3
組織的な対応

ポイント4
個に応じた対応の
見直し

組織的な「学業指導」

～ 学業指導の「PDCAサイクル」～

- P: 意識調査等を通じた児童生徒の実態の把握、課題や目標の設定、取組の準備
- D: 「集団づくり」と「授業づくり」の取組の実施
- C: 意識調査等の結果の分析（実態や変容の共有）、取組の点検・見直し
- A/P: 目標や取組の修正、取組の方向性の共有
- D: 「集団づくり」と「授業づくり」の取組の実施

本編では、県教育委員会が令和5年度及び6年度に実施した「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における、サイクルで進める組織的な「学業指導」の実践を紹介しています。

（令和5年度）宇都宮市立横川中央小学校、日光市立下原小学校、益子町立七井中学校、下野市立国分寺中学校、栃木県立宇都宮南高等学校、栃木県立益子特別支援学校（高等部）

（令和6年度）矢板市立矢板小学校、足利市立青葉小学校、那須塩原市立黒磯中学校、栃木県立小山高等学校

9～12月

D（実行）
働きかけ・取組
アンケート調査③

12月

C（点検）
アンケート結果の
分析・取組の見直し

A/P（修正/計画）
目標や取組の修正
方向性の共有

1～3月

D

C

A/P

3～4月

3月、7月、12月のアンケート結果を比較し、これまでの取組を振り返ります。

このあとも、点検の結果等を踏まえ、目標や取組を修正し、共通理解に基づき取組を進めます。